

COMBO[®] PLUS

ステント手帳

薬剤溶出型冠動脈ステントを使用される方へ

この手帳は、持ち主の方にとって大切な手帳です。
拾われた方は、ご本人までご連絡をお願いします。

この冊子について

この冊子は、オーバスネイチ^{やくざいようしゅつがたかんどうみやく}薬剤溶出型冠動脈ステント
(COMBO[®] Plus^{コンボ プラス}コロナリーステント)を使用している患者さまに
常に携帯していただくための手帳です。

^{かんどうみやくしっかん}
*冠動脈疾患に対する治療として、ステントと呼ばれる拡張可能な小さいメッシュ状の
金属の筒を血管内に^{りゅうち}留置することがあります。
これにより、血流を改善・保持し、再び血管が狭くなることを予防します。

この冊子には、患者さまにお守りいただきたい重要な注意や医療
従事者に知っていただきたい患者さまの治療状況に関することが
書かれています。

*冠動脈ステントを留置された患者さまは、血を固まりにくくする作用のあるお薬
(抗血小板薬)を長期間服用します。
抗血小板薬の服用中は、出血を起こしたときに血が止まりにくくなるため、医療
従事者の方に治療状況を知っていただく事はとても重要です。



患者さまご本人の情報

フリガナ		性別
お名前		男 女
生年月日	西暦 _____年 _____月 _____日 生まれ	
ご住所	〒	
ご連絡先	_____ () 【緊急連絡先(ご本人以外の方の連絡先)】 お名前: _____ (続柄 _____) _____ ()	

ステント留置医療機関情報

医療機関名	
ご連絡先	電話番号: _____ () 住所:〒
診療科名	
担当医師名	

目次

患者さまへ

お守りいただきたい重要なこと	4
抗血小板薬による副作用	6
日常生活での注意事項	7
その他の注意事項	8
海外で医療機関にかかる場合	9
よくある質問と回答(Q&A)	10

医療従事者の方へ

お願い事項	12
血液検査の重要性	13
抗血小板薬による副作用	13
MRI適合性	14
患者さまのステント留置情報	15
患者さまの抗血小板薬服用情報	16
患者さまの血液検査情報	18

患者さまへ

○お守りいただきたい重要なこと

- この手帳と抗血小板薬服用カードは常に携帯してください。
こうけっしょうばんやくふくよう
- 転院、もしくは他院や他診療科・歯科・薬局にかかるときには、
こうけっしょうばんやくふくよう
この手帳と抗血小板薬服用カードを必ず提示してください。

*医師・歯科医師・薬剤師が治療方法や他のお薬との飲み合わせ等を判断するために必要です。

*抗血小板薬を服用すると、出血したときに血が止まりにくくなります。
内視鏡検査や抜歯、手術など出血する可能性がある治療を受ける場合、事前に医師へ薬剤溶出型冠動脈ステントを留置していることと、抗血小板薬を服用していることを必ずお伝えください。

*抗血小板薬服用カードの入手方法については、薬剤師におたずねください。

- ステント留置前からステント留置後1年間は、男女とも効果的な避妊をおこない、授乳を避けてください。

*オーバスネイチ薬剤溶出型冠動脈ステントには、治療した血管が再び狭くなることを防ぐ目的でシロリムスというお薬が極少量使われています。
このお薬による妊婦及び胎児への影響は不明なため、お守りください。

患者さまへ

- 処方されたお薬は、医師や薬剤師の指示を守ってお飲みください。

*ステントを留置してから数カ月、その周りに血栓という血のかたまりができやすくなります。血栓ができると、心臓の状態を悪化させる原因になります。血栓を防ぐために抗血小板薬を長期間きちんと飲み続けることがとても重要になります。
患者さまの自己判断で服用を止めてはいけません。

- 抗血小板薬の中には服用開始後、定期的に血液検査を受けることが推奨されているお薬があります。

*血液検査の結果、患者さまが自覚していないお薬の副作用を知ることができます。
*もし、ステント留置後に血液検査を受けていない場合には患者さまから医師にその旨を申し出てください。

- お薬の服用により体調変化を感じたら、すぐに医師または薬剤師に申し出てください。

*抗血小板薬を飲み始めた場合、次ページのような症状を自覚することがあるかもしれません。
患者さまご自身の体調変化には特に注意を払ってください。

患者さまへ

○抗血小板薬による副作用

万が一、次のような症状が現れた際は、抗血小板薬による副作用である可能性があります。

直ちに、医師または薬剤師にお知らせください。

出血が疑われる症状

- 鼻や歯ぐきからの出血
- 便が黒い、便に血が混じる
- 尿が褐色になる
- 血を吐く

肺や胸の症状

- から咳
- 息苦しい
- 階段や坂での動悸や息切れ

お腹の症状

- 吐き気、悪心、おう吐
- 食欲不振
- みぞおちの痛み
- 胃の不快感
- 腹痛

かぜのような症状

- 熱が出る(37℃以上)
- 激しい頭痛
- のどが痛む
- 関節痛

皮膚や目の症状

- 皮膚や白目が黄色くなる
- 皮膚にブツブツやかゆみ
- あざができる(紫色・赤色)
- ものが見えにくい

全身の症状

- 顔や手足がむくむ
- 顔や手足の片側麻痺
- 意識がうすれる(ウトウト)
- からだがだるい
- 強い疲労感

*上記以外にも、様々な自覚症状があらわれることがあります。気になることがありましたら医師または薬剤師にご相談ください。

患者さまへ

○日常生活での注意事項

健康的な生活を送るためには、医師から処方されたお薬の服用を守るとともに、毎日の生活習慣を整えることが重要です。

• バランスの良い食生活を心がけましょう。

塩分・脂肪分・糖分・カロリーの取りすぎに注意して、規則正しく食事をとりましょう。

• 適度な運動をしましょう。

ウォーキングなど穏やかな運動が適しているといわれています。どのくらいの運動量が適しているかは医師に相談してください。

• 水分をこまめにとるよう心がけましょう。

脱水になると血栓ができやすくなります。

• お酒はほどほどにしましょう。

• タバコを吸うのはやめましょう。

喫煙は、動脈硬化を促進します。

また、血管を詰まらせる血栓ができやすくなります。

• ストレスと上手に付き合いましょう。

ストレスをためないように、自分なりのリラックス方法を見つけましょう。

患者さまへ

○その他の注意事項

〈オーバスネイチ薬剤溶出型冠動脈ステント〉

一般に、ステントを血管内に留置すると、からだの正常な修復反応により、次第にステントの内側に血管内皮が張られるようになります。

ステントの内側に血管内皮がきれいに張られた状態になれば、ステント血栓症の発症リスクを抑えられると考えられています。

オーバスネイチ薬剤溶出型冠動脈ステントの表面には、損傷した血管内皮の修復に関与する血管内皮前駆細胞を捕獲するはたらきをもつ抗CD34抗体(マウス由来)が固定されています。

この抗体は人体への影響がないことが確認された安全なものです。

このステントは、世界50カ国以上で多くの患者さまに使用されており、この抗体が人体に使用されることによるアレルギーなどの報告はありません。

しかしながら、万が一、体調変化を感じたら、すぐに医師または薬剤師に申し出てください。

患者さまへ

○海外で医療機関にかかる場合

下記に、「私は冠動脈疾患により薬剤溶出型冠動脈ステントを留置しています。それに伴い、抗血小板薬を服用しています。」という外国語表記を記載しています。

海外滞在中に医療機関及び薬局を利用される場合は、このページを提示してください。

英語

I have a drug-eluting stent for a coronary artery disease. Accordingly, I am taking antiplatelet medications.

韓国語

저는 관동맥 질환으로 인해 약제 용출 스텐트를 유치하였 습니다. 그에 따라 항혈소판약을 복용하고 있습니다.

スペイン語

Estoy tratado(a) con implante de stents medicados debido a la enfermedad arterial coronaria, por lo que estoy bajo tratamiento con medicamentos antiplaquetarios.

中国語

簡体(北京、四川など主に中国大陸にて使用)

我患有冠状动脉疾病, 体内留置有药物洗脱支架, 同时还在服用抗血小板药物。

繁体(香港、台湾などで使用)

我患有冠狀動脈疾病, 體內留置有藥物洗脫支架, 同時還在服用抗血小板藥物。

患者さまへ

よくある質問と回答(Q&A)

Q1 薬剤溶出型冠動脈ステントはどのくらいの期間留置されるものなのですか？

薬剤溶出型冠動脈ステントは、冠動脈内に一度留置されると永久に留置され続けます。

Q2 薬剤溶出型冠動脈ステントが体内にあることを感じますか？

体内にある薬剤溶出型冠動脈ステントの存在を感じることはありません。

Q3 金属でできている薬剤溶出型冠動脈ステントが体内でさびることはありますか？

オーバスネイチ薬剤溶出型冠動脈ステントは、材質的にさびることはありません。

Q4 電子レンジ、空港の金属探知機、携帯電話などの電磁波がステントに対して影響を与えることはありますか？

オーバスネイチ薬剤溶出型冠動脈ステントに影響を与えることはありません。

Q5 ステント留置後にMRI検査を受けることはできますか？

オーバスネイチ薬剤溶出型冠動脈ステント留置後は、一般的な条件下であればMRI検査を受けることができます。検査の前にこのステント手帳を医師に必ず提示してください。

Q6 薬剤溶出型冠動脈ステント留置後にマンモグラフィー/CTスキャン/X線検査を受けることはできますか？

オーバスネイチ薬剤溶出型冠動脈ステント留置後もこれらの検査を受けることができます。検査の前にこのステント手帳を医師に必ず提示してください。

Q7 どのくらいの期間で仕事に復帰できますか？

多くの方が術後数日～1週間程度で仕事に復帰されています。患者さまにより異なりますので、詳しくは担当医師にご相談ください。

Q8 ステント手帳や抗血小板薬服用カードを携帯する理由は何ですか？

この手帳やカードは、他の医療機関や他診療科にかかる際、患者さまの冠動脈に薬剤溶出型冠動脈ステントが留置されていること及び、抗血小板薬を服用していることを医師・歯科医師・薬剤師へお知らせする大切な役割を担っています。手帳やカードを医療従事者に提示することで適切な検査や処置を受けることができますので、常に持ち歩くようにしてください。
*抗血小板薬服用カードの入手方法については、薬剤師におたずねください。

Q9 薬剤溶出型冠動脈ステント留置後に、痛みや違和感があったら、どうすればよいですか？

ご自身で何か不安に感じられることがあれば、我慢をせず医師にご相談ください。

Q10 なぜ抗血小板薬(チエノピリジン系薬剤)を服用し始めてから2カ月間は血液検査が推奨されているのですか？

抗血小板薬のうち、チエノピリジン系と呼ばれるお薬では、最初の2カ月間に副作用(血液障害や肝障害)がみられることが報告されています。このため、服用開始から2カ月間は血液検査を行うことが推奨されています。血液検査は自分では気づくことができない体の反応やお薬の副作用の兆候を調べることができます。患者さまの健康的な生活のためにも非常に大切な検査となりますので、必ず来院して血液検査を受けてください。

医療従事者の方へ

○お願い事項

この手帳の持ち主(患者さま)は冠動脈に薬剤溶出型冠動脈ステント(製品名:COMBO® Plusコロナリーステント)が留置されており、抗血小板薬を服用しています。

*薬剤溶出型冠動脈ステント留置後は、術後少なくとも6カ月、急性冠症候群と診断された患者さまでは12カ月の二剤抗血小板療法(DAPT)を行うことが推奨されています。

※アスピリンとP2Y₁₂阻害剤(プラスグレル塩酸塩製剤、クロピドグレル硫酸塩製剤、チクロピジン塩酸塩製剤、チカグレロル等)の二剤を併用する薬物療法です。

薬剤の相互作用や合併症についてご考慮いただきますようお願いいたします。

患者さまの病状により上記薬剤の処方箋変更が必要な場合には、薬剤溶出型冠動脈ステントを留置された医療機関の医師まで必ずご連絡くださいますようお願いいたします。

(ステント留置施設に関する情報は2ページ目をご参照ください)

医療従事者の方へ

○血液検査の重要性

チエノピリジン系薬剤(プラスグレル塩酸塩製剤、クロピドグレル硫酸塩製剤、チクロピジン塩酸塩製剤等)では、主に服用開始後2カ月以内に、重篤な副作用(肝障害/ 顆粒球減少症/ 血栓性血小板減少性紫斑病:TTP)がまれに起こることが報告されています。副作用の発現を事前に防ぐためにも、服用開始後2カ月間は原則として2週間に1回の血液検査を行ってください。

○抗血小板薬による副作用

- 出血傾向(歯肉出血、鼻出血、皮下出血、吐血、血便、下血、褐色尿、血尿、貧血 など)
- 発熱、頭痛、咽頭痛、関節痛
- 悪心、嘔吐、食欲不振
- 発疹、掻痒感、湿疹
- 倦怠感
- 呼吸困難感
- 胃・十二指腸潰瘍
- 肝機能障害、黄疸
- 血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)
- 間質性肺炎
- めまい、耳鳴り
- 精神神経症状
- 過敏症 など

*患者さまに処方される抗血小板薬の添付文書を必ずご確認ください。

医療従事者の方へ

○MRI適合性

オーバスネイチ薬剤溶出型冠動脈ステントは非臨床試験において、単一留置及び最大61mmまでの重複留置であれば、「MR Conditional」であることが証明されています。

以下の条件下であればMRI検査を安全に施行することができます。

静磁場強度	1.5及び3.0T
空間磁場勾配最大値	720G/cm(7.2T/m)以下
15分間のMRスキンの全身平均比吸収率(SAR)	2W/kg(通常稼働モード)
画像アーチファクト*	約11mm伸長

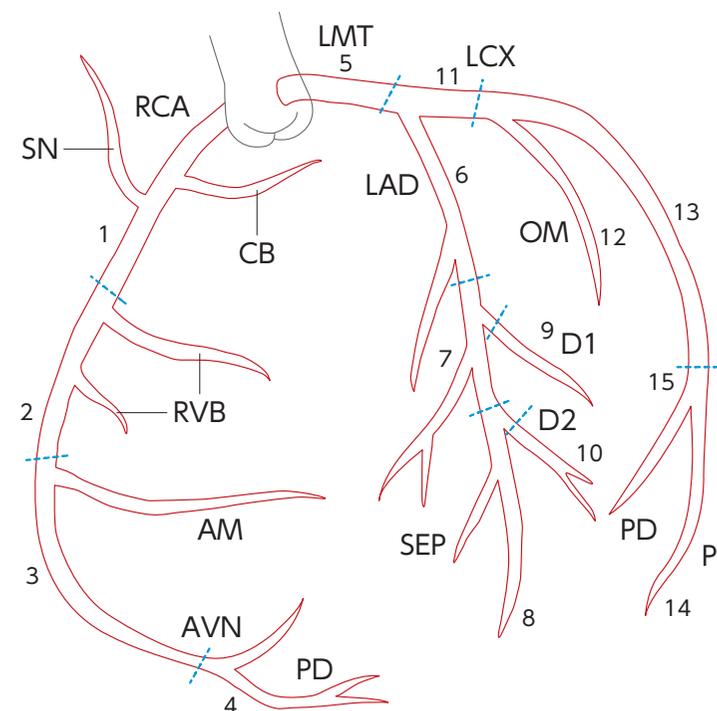
*GRE系パルスシーケンス及び3.0テスラMRIシステム使用

・上記のスキニング条件下で15分間の連続スキニング後に、最大5.3℃上昇することが予測されます。

医療従事者の方へ

○患者さまのステント留置情報

冠動脈ステント留置部位を図示してください。



処置日	ステント名	サイズ	備考

医療従事者の方へ

○患者さまの抗血小板薬服用情報

年月日	服用開始日(西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日
服用薬剤名	
医療機関名	
備考	中止指示など連絡事項があれば記載してください。

年月日	服用開始日(西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日
服用薬剤名	
医療機関名	
備考	中止指示など連絡事項があれば記載してください。

年月日	服用開始日(西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日
服用薬剤名	
医療機関名	
備考	中止指示など連絡事項があれば記載してください。

医療従事者の方へ

○患者さまの抗血小板薬服用情報

年月日	服用開始日(西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日
服用薬剤名	
医療機関名	
備考	中止指示など連絡事項があれば記載してください。

年月日	服用開始日(西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日
服用薬剤名	
医療機関名	
備考	中止指示など連絡事項があれば記載してください。

年月日	服用開始日(西暦) 年 月 日 ~ 年 月 日
服用薬剤名	
医療機関名	
備考	中止指示など連絡事項があれば記載してください。

医療従事者の方へ

○患者さまの血液検査情報

検査日(年)	/	/	/	/
赤血球数(RBC)万/ μ L				
白血球数(WBC)/ μ L				
血小板数(PLT)万/ μ L				
GOT(AST)				
GPT(ALT)				
CRP				
CPK				

検査日(年)	/	/	/	/
赤血球数(RBC)万/ μ L				
白血球数(WBC)/ μ L				
血小板数(PLT)万/ μ L				
GOT(AST)				
GPT(ALT)				
CRP				
CPK				

医療従事者の方へ

○患者さまの血液検査情報

検査日(年)	/	/	/	/
赤血球数(RBC)万/ μ L				
白血球数(WBC)/ μ L				
血小板数(PLT)万/ μ L				
GOT(AST)				
GPT(ALT)				
CRP				
CPK				

検査日(年)	/	/	/	/
赤血球数(RBC)万/ μ L				
白血球数(WBC)/ μ L				
血小板数(PLT)万/ μ L				
GOT(AST)				
GPT(ALT)				
CRP				
CPK				

